



# 3月幼稚園だより

令和6年3月1日  
千代田区立番町幼稚園  
園長 中村 千絵

## 子ども自身の考えが活かされること

園長 中村 千絵



(番町幼稚園HP)

通用門の梅が、春一番の強い風で、吹雪のように花びらが散り、子どもたちは、花びらを拾って集め、「園長先生、ほら、いい匂いなんだよ」と私のところまでもってきてくれます。保護者の方は、「もう梅が散ってしまって、寂しいですが春ですね」と声を掛けてくださいます。梅の木にも、子どもたちの思い、大人の思いがあることを感じます。



満開の梅の木の前で。  
5歳児うめ組記念撮影。

### 子ども自身が考え、つくり出す生活

幼稚園では、自分で考えることを大切にしています。遊びだけではなく、生活の中でも、子どもたちに「どうしたらよい?」と問いかけます。

例えば、もも組(3歳児)では、「うめ組(5歳児)がもうすぐ小学1年生になって、幼稚園には来なくなっちゃうんだよ。寂しくなるね。」と担任が話をすると、子どもたちから、「お手紙を渡す」「プレゼントを渡す」「私は〇〇ちゃんが大好きなのに!」と様々な声が聞こえます。

担任が「うめ組さんのために、皆でプレゼントを作りましょう!」と言ってしまったら、それは作業になってしまうけれど、「お別れは寂しいから何かしたいね」と気持ちを高めることで、プレゼント作りは、思いの込められた経験になります。

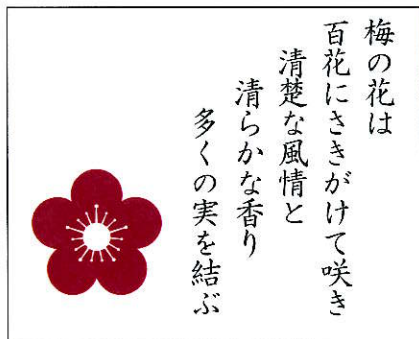
### 大人には思いつかない子どもの考え

さくら組(4歳児)後半になると、生活や遊びのルールなども、子どもたちが考えを出し合い、相談します。さくら組で、ザリガニに名前がないことに気付いたある子どものつぶやきから「ザリガニの名前」を決めることになりました。「オスカメスカ分らないと、名前が考えられない」と言う子どもの発言から、ザリガニの体の構造についての大調査もあり、それぞれの子ども自分の根拠をもって、ザリガニの名前の候補をあげていきます。(例えば、「しっぽがお花みたいだから、おはなちゃん!」)

たくさん名前候補が出てきて、それぞれ、思いも根拠もあるから、担任も困っていた時に、「じゃあ、毎日違う名前にしたらいいんじゃない?」と言う子どもの発言。さくら組のザリガニは、月曜日は「あみちゃん」、火曜日は「えびちゃん」と曜日ごとの名前になることになりました。

大人では、なかなか出てこない考えです。大人の常識では測れない子どもの考えが子どもたちの生活に活かされていくからこそ、生活も遊びも豊かになっていきます。

うめ組の子どもたちの遊びや生活を見ていると、それぞれがしっかり自分の考えを持っていることに驚かされます。それぞれの子どもに、それぞれの考えがあり、それが大切にされることで、「自分自身で考える」力が育まれていくのだと、改めて思います。年度最後の月、しっかり子どもの考えを引き出し、耳を傾け、活かされていくよう、保育を充実してまいります。



左の言葉は、番町幼稚園の園章が作られた時に、添えられたものです。生涯で初めて出会う学校である幼稚園で、子どもたちが自分のよさを自覚し、友達と共にたくさんの経験をすることで、自分を広げていけるよう、この1年間、保育を進めてまいりました。子どもたちの今年度の学びが、就学後、また、進級後の学びにつながるよう、3月を大切に過ごしてまいります。

1年間にわたる保護者の皆様、地域の皆様の温かいご支援とご協力に厚く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。